

NTTデータとの大規模MCシステムを核にしたプラットフォーム技術が大きな強みに

1988年（昭和63年）にNTTデータがNTTから分社・独立して発足する以前、電電公社にデータ通信本部が設立された1967年（昭和42年）から41年間に及ぶ緊密な関係を築いてきた富士通。同社は、NTTデータが提供するデータ通信サービスの基盤となるDIPSシステムの開発、さらにはNTTデータのリーダーシップのもとで、社会インフラとしての公共システム、金融機関の決済ネットワークや基幹系システムなど数多くの大規模ミッションクリティカル（MC）システムの構築に参画してきた。汎用大型コンピュータであるDIPSの開発及び数多くの大規模MCシステム構築・運用の技術・ノウハウは、今日の富士通の礎となっているといっても過言ではない。

30万人を超えるSEが大規模MCシステムの構築・運用に参画

NTTデータとの41年間に及ぶレゾン実績について、富士通の弓場英明経営執行役上席常務・テレコムビジネスグループ長は次のように語る。

「NTTデータ様創立20周年、まことにおめでとうございます。富士通は、電電公社がデータ通信本部を発足させ

て以来のお付き合いで、今日まで、公共分野や金融分野などで共同利用型のネットワークをベースにした大規模ミッションクリティカルシステムをNTTデータ様のご指導のもとで構築・運用してまいりました。参画したSEは延べ30万人を超えています。この間、ハードウェアやソフトウェアはもちろん、大規模MCシステム構築に関するプロジェクトマネジメント、さらには24時間365日安定的に稼働させる運用技術など、多くのことを学ばせていただきました。この間の経験・ノウハウをベースにした大規模MCシステムを構成するサーバ・ストレージ・ミドルウェアなどのプラットフォーム技術は、現在の富士通の大きな強みとなっています。」

NTTデータ様設立後20年間にわたり延べ30万人を超えるSEが経験・蓄積した大規模MCシステムの構築・運用技術やノウハウは、匠の技として、昨年6月に設立した100%出資の専門会社「㈱富士通ミッションクリティカルシステムズ」に結集されている。

また、弓場英明経営執行役上席常務は、「数年先を見越した富士通のテクノロジーの価値を認めていただき、大規模MCシステムで富士通の1号機あ



富士通㈱
経営執行役上席常務
テレコムビジネスグループ長
弓場 英明氏

るいは2号機といった先駆的なマシンや新しいミドルウェアを数多くご採用いただいている点も非常に印象的です。このようなNTTデータ様の姿勢にお応えすべく、新しいマシンやミドルウェアの開発にあたっては常にNTTデータ様の先鋭的な大規模MCシステムでご採用いただけるよう、数年先の技術を先取りした最高の性能・機能を誇る製品の開発にチャレンジし続けています。」と語っている。

叩き込まれた三現主義を「フィールド・イノベーション」に活かす

DIPSによる社会情報システムの開発に始まり、約30年間一貫して大規模MCシステムの開発に従事してきた常務理事・SIアシュアランス本部の梅村良本部長は、「私は約30年間、



富士通(株) 常務理事
SIアシュアランス本部 本部長
梅村 良氏

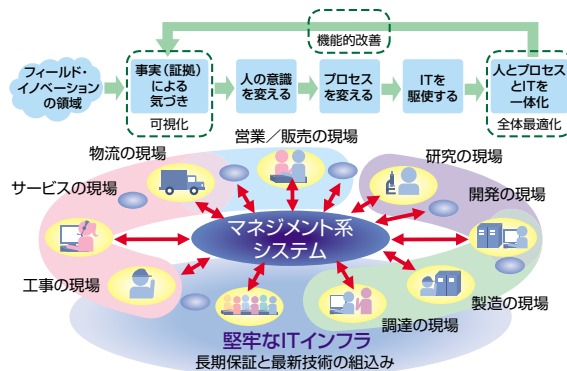


図1 人とプロセスとITの継続的改善を図る富士通の「フィールド・イノベーション」構想

NTTデータ様関連のプロ
ジェクト一筋でやってま

いりました。現在はSIアシュアランス本部を統括していますが、その意味ではその経験が今の仕事に非常に役に立っているというか、多くのことを勉強させていただき、NTTデータ様に育てていただいたといっても過言ではありません。」と語る。

梅村良本部長のSIアシュアランス本部は、SIビジネスを健全化することを目的とした部署であり、プロジェクト案件の見極めと、上流工程の要求定義を含めた顧客との役割分担の明確化、それとリスクマネジメントの実施が主要ミッションだ。

「最近では「三現主義（現場・現物・現実）」と言いますが、NTTデータ様のプロジェクトを通して、それを徹底的に叩き込まれました。絵に描いた餅ではなく、現場・現物・現実を見据えたうえでプロジェクトを推進することを長い間やってきましたので、今で言う三現主義が結構身に付いたと思います。私の本部の主要ミッションを遂行するためには、いかにプロセスや仕組みを有効的に機能させるか、実行するかが一番重要

で、そのためには三現主義の考え方がすごく役立っています。これは、富士通が提唱している人やITやプロセスの役割を見える化し継続的な改善を図る「フィールド・イノベーション」構想の実現にも活かせると思います。このフィールド・イノベーションの分野でNTTデータ様と協力することもあるだろうし、こういうことの価値をぜひ高めていって、世の中に認めてもらうということで力を合わせる事ができたらと考えています。また両者が協力し、これまで手がけた大規模MCシステム構築技術・ノウハウをグローバルで展開することができればと思っています。」(梅村 良常務理事)

富士通が掲げる「フィールド・イノベーション」は、ITの価値向上には人の知恵をもっと活かす必要があるとの認識を踏まえ、対象領域を明確に設定したうえで、構成要素となる人とプロセスとITの役割を可視化（見える化）し、そのうえで具体的な改善プロセスを実行していくという取組みだ（図1）。これは、「ITサー

ビスベンダー」から「ビジネスサービスベンダー」へと自らを革新するためのビジョンでもあり、同社ではフィールド・イノベーションを実行するフィールド・イノベーターの大量育成に努めている。すでにフィールド・イノベーションは富士通社内でも実践しており、例えばソフトウェア開発の現場でもシステムチックな手法による効率的な取組みによって、生産性の向上を図っている。

さらに、SIビジネスの健全化、正規化に向けては、NTTデータの主導で発足し、現在は情報処理推進機構のソフトウェア・エンジニアリング・センター（IPA SEC）が行っている「実戦的アプローチに基づく要求仕様の発注者ビュー検討会」（発注者ビュー検討会）にも参加し、その活動成果に大きな期待を寄せている。

大規模MCシステムの構築・運用技術・ノウハウを戦略会社に集約

富士通は、昨年6月、NTTデータのもとで行った数多くの大規模MCシステムの構築・運用で培った技術・ノウハウを結集した100%出資の戦略会社「(株)富士通ミッションクリティカルシステムズ」（以下、FMCS）を設立した。

DIPSのOS及び今でいうミドルウェアの開発、さらにはNTTデータとの大規模MCシステムの共同開発を30年以上続けている常務理事・NTTデータ事業本部の三浦壽男本部長は、FMCSの代表取締役社長も兼務している。

「私は30年以上、製品開発とシス

テム開発に従事してきました。最初に開発した製品は、電電公社データ通信本部時代のシステムのベースになっています。その後、NTTデータ様のナショナルプロジェクトの開発に参画

したほか、今日まで数多くの大規模MCシステムの共同開発に参画してきました。富士通には、私同様、多くの修羅場を乗り越え、高信頼の大規模MCシステム特有の技術やノウハウを身に付けた技術者が沢山いることに加え、大規模かつ厳しい機能要件を満たす製品をも開発・提供し、安定運用し続けてきた実績を有しています。こうしたMC分野のリソースを集約した専門会社を設立し、私が社長を兼務することとなったものです。」(三浦 壽男 常務理事)

FMCSは、MCシステムの構築・運用に精通した約350名の技術者からなる専門家集団だ。富士通では、FMCSをMCシステム事業の中核会社と位置づけ、富士通が提供するプラットフォーム製品と、FMCSが行うMC基盤ソフトウェアの開発・提供、システム構築、運用・保守サービスの提供を合わせたシナジー効果を活かし、MCシステム事業を強力に推進していく方針である。また、FMCSを通して、MC分野の将来を担う人材の育成にも注力している。

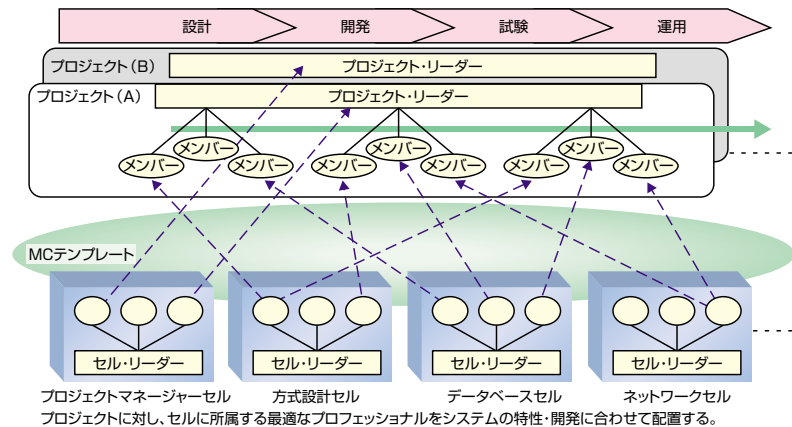


図2 セル生産方式マネジメントの概要

FMCSでは、システム構築に業界初となる「セル生産方式マネジメント」を採用、図2に示すように各機能単位に専門化したメンバーで構成する小集団（セル）から、プロジェクトの特性や規模・工程に応じて必要なスキルをもつメンバーを選出し配置することで柔軟かつ効率的なプロジェクトの推進を図り、高信頼・高性能で大規模かつ複雑なMCシステムを短期間で構築することを可能にしている。

また、FMCSではオープン系のMCシステムにも取り組んでおり、メインフレームのグローバルサーバ「GS21シリーズ」とオープンプラットフォームフォームでメインフレームと同等の信頼性を提供する「PRIME QUESTシリーズ」、さらにはSolarisベースのUNIXサーバ「SPARC Enterpriseシリーズ」のMCシステムへの適用を積極的に行っている。

以上、NTTデータとのリレーション実績に基づく富士通の強みを中心に紹介した。最後に、NTTデー



富士通(株) 常務理事
NTTデータ事業本部 本部長
三浦 壽男氏

タに対する今後の期待について、弓場英明経営執行役

上席常務は、「現在手がけている社会インフラとしての大規模MCシステムは、NTTデータ様にしかできないノウハウ・スキルの塊ですので、これを継続的に行っていただくことが日本のためにも非常に重要です。そこで培ったノウハウをグローバルで展開することにも注力して欲しいと思います。また、昨年発足させ現在はIPA SECに移行した“発注者ビュー検討会”や、レガシーシステムに替わる次世代システムのアーキテクチャーを視野にこの4月14日に発足させた“システム基盤の発注者要求を見える化する非機能要求グレード研究会”など、わが国のSI業界をリードする先導的なアクティビティを積極的に行っていただくことも期待しています。もちろん富士通も一緒になって取り組む所存です。」と述べている。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン

TEL：0120-933-200

受付時間 平日9:00～17:30

(土・日・祝日を除く)